

令和5年度 東我孫子中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和5年度 東我孫子中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3 年	学校	124	63	46	35	7.6	13.0	7.9
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	123	58.5	46.6	49.8	43.9	49.6	13.6	4.9	12.5	12.6	9.3
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2 年	学校	127	66.8	53.9	54.5	43.8	48.6	8.0	2.5	12.5	11.8	12.5
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.0	11.1	8.8
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1 年	学校	140	57.0	57.0	54.7	59.3	58.1	10.5	6.3	10.1	3.6	4.9
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	10.3	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	124	88.1	98.5	109.6	89.5
10月24日	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	126	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.46	30.15	45.50	55.28	80.78	—	8.06	191.91	22.63	43.86
	大阪市	28.62	26.21	42.04	51.65	79.05	417.51	8.05	194.78	19.88	40.79
	全 国	29.02	25.82	44.16	51.22	78.07	409.02	8.01	197.02	20.40	41.32
2 年 女 子	学校	23.38	22.83	45.59	46.10	54.16	—	8.98	170.02	13.09	48.52
	大阪市	23.11	22.12	44.78	46.25	52.11	313.19	9.03	165.29	12.10	46.99
	全 国	23.15	21.62	46.27	45.65	50.70	306.26	8.95	166.34	12.43	47.22

令和5年度 東我孫子中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査の結果では、平均正答率は、全国平均と比較すると、国語（－6.8）、数学（－5.0）、英語（－10.6）、大阪市平均と比較すると、国語（－4.0）、数学（－3.0）、英語（－9.0）となっており、3教科とも全国平均を下回っているも。無回答率においては、全国平均、大阪市平均と比較すると3教科とも無回答が多くなっている。国語では言葉の特徴の領域以外において全国平均を下回っている。数学は数と式以外の領域において平均を下回っている。英語ではすべての領域で下回っている。生徒質問紙の結果においては、「いじめを許さない心の育成」には成果が表れている。「自尊感情」「計画を立てて学修する」「家庭学習習慣の育成」には、引き続き課題が残る。

●3年チャレンジテストの結果を大阪府の平均正答率と比較すると、国語（－3.6）、社会（－8.1）、数学（－2.4）、理科（－3.7）、英語（－4.6）となっており、5教科すべてで下回っている。無回答率も全教科で、大阪府平均より多くなっている。普段の授業の様子からも学習に対する意識に課題がある。

●3年大阪市英語力調査の結果を大阪市の平均正答率と比較すると、リスニング（－9.2）、リーディング（－13.2）、ライティング（－23.3）、スピーキング（－12.7）とすべての項目において大幅に下回っていて、学習への課題が残る。

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の平均値を全国の平均値と比較すると、男子は上回ったのが5項目、下回ったのが3項目、体力合計点は＋2.54点となった。女子は上回ったのが6項目、下回ったのが2項目、体力合計点は＋1.30点であった。

また、本校の平均値を大阪市の平均値と比較すると、男子は上回ったのが5項目、下回ったのが3項目、体力合計点は＋3.07点となった。女子は上回ったのが6項目、下回ったのが2項目、体力合計点は＋1.53点となった。

男女とも全国平均・大阪市平均と比較しても上回っているものが多く、体育の授業をはじめ運動の成果が上がっているものと思われる。

●チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplusでの結果を大阪府・大阪市の平均生徒率と比較すると、1年生は、国語（－3.8）、社会（＋1.0）、数学（±0.0）、理科（－2.9）、英語（－6.0）と社会は上回っているが、国語、英語、理科では大きく下回っている。2年生は、国語（±0.0）、社会（－0.3）、数学（＋2.3）、理科（＋3.5）、英語（－8.5）と数学、理科は上回っているが、英語は大きく下回っているという結果が出ている。無回答の割合は、2年では、大阪市や大阪府の平均と大差ない状況であった。このことから教科によっては学力の定着に大きな差が生じている。

【今後に向けて】

●学力の向上に向けては、授業研究に引き続き注力し、各教科指導において、「主体的・対話的で深い学び」を目指し、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れるなど指導法の研究や工夫を進めていく。また、一人一台端末や各教室のプロジェクターや大型液晶モニター等のICT機器の活用を推し進め、より分かりやすい授業を構築していく。また、習熟度別授業、分割授業、TTなどを活用した一人ひとりに寄り添った個に応じたきめ細かい指導も積極的に進め、確かな学力の醸成と生徒たちの意欲の向上を図っていく。また、国語科だけではなく、他の教科や日常生活の中での「文章」を書くこと、自分の考えをまとめて発表することなどの言語力を高める取り組みを工夫するとともに、問題を正しく理解するだけでなく、与えられた資料(文章・図・表)を正確に素早く理解し、それに自分の知識を統合させて解答できる力を身につけさせるようにする。また、「早寝・早起き・朝ごはん」や「家庭学習」など、基本的な生活習慣の育成のため、教育相談や保護者懇談、各通信などの活用を図り、保護者との連携をより一層強めることで、教育の向上に努める。英語力調査のリスニングが大阪市平均と他のものより差が小さくなっているのは、C-NETによる授業の中で、英語のリスニングに慣れ親しんでいる効果かと思われるので、ほかの分野でも成果が出せるように積極的に参加するように働きかけるなど、さらに工夫が必要である。

●体力の向上に向けては、保健体育科の授業では、生徒が真剣に授業に取り組み、記録の向上に挑戦するように引き続き指導していく。また、毎時間の授業において、基礎的トレーニングを取り入れるなど体力・運動能力の向上を目指していくようにする。体育的行事では、体育大会や各学年でのスポーツ的な大会を通して、各クラスが学級対抗での優勝を目指すなど、運動することの喜びや意義を感じながら体力向上に取り組むようにする。部活動においては、学級担任と部活動顧問との連携を密にし、生徒たちが部活動へ積極的に参加するように働きかける。